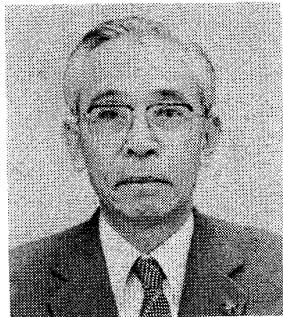


渡辺 三郎 賞

愛知製鋼(株)取締役副社長
荒川 武二君

鉄鋼とくに特殊鋼およびその製造技術の研究開発



君は昭和 20 年 9 月京都帝国大学工学部を卒業、22 年 10 月愛知製鋼(株)に入社し、31 年 4 月技術研究課長、37 年 9 月検査部長、42 年 3 月知多工場長、44 年 3 月研究部長を歴任、47 年 2 月取締役、54 年 3 月常務取締役、58 年 3 月専務取締役、60 年 3 月取締役副社長に就任、現在に

至っている。

この間、一貫して鉄鋼とくに特殊鋼およびその製造技術の研究開発に従事し、特殊鋼の進歩発展に幾多の業績をあげたが、その主なるものを掲げると以下のとおりである。

1. 自動車用高品質ばね鋼の開発

昭和 20 年以来ばね鋼に関して生産量で日本一のシェアを維持するとともに品質の改善に著しい成果をあげた。高寿命のばね製品はわが国のみならず広く世界に輸出実績をもち、又高品質ばね鋼の開発に多大な貢献をした。最近では耐へたりばね鋼 SUP7NV を開発し、実用化され自動車の軽量化に寄与している。

2. ステンレス形鋼の実用化

昭和 20 年代の末期からいち早くステンレス鋼の製造の検討に着手し、36 年には米国アームコ社の技術援助を受けるなどにより、ステンレス鋼の生産技術向上をはかしたが、38 年よりステンレス鋼アングル及び平鋼の製造を開始し、その品質改善にも尽力した。その結果品質と生産量において現在の地位を築くことができた。

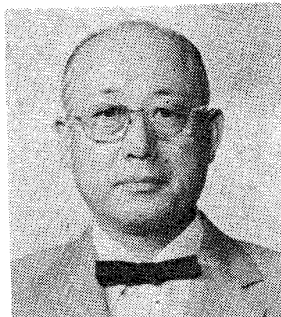
3. 異形材の特殊加工技術の開発

圧延機又はローラダイス機等を使用して小形丸棒から小形のアングル・平鋼その他特殊異形断面に加工する技術やチャンネルの圧延技術等を他社に先駆けて開発し、新しい加工技術の開拓に貢献した。

渡辺 三郎 賞

大同特殊鋼(株)常務取締役
平田 宏君

特殊鋼製造技術の進歩発展



君は、昭和 26 年 3 月早稲田大学理工学部応用金属学科卒業後、直ちに新理研工業(株)に入社、大同製鋼(株)(現大同特殊鋼(株))と合併後、各工場の技術課長、生産管理部長、技術サービス部長、取締役知多工場長等を歴任、昭和 59 年 9 月常務取締役に就任して現在に至っている。

この間君は一貫して、需要家ニーズに基づいた特殊鋼製造技術の発展、設備改善、新製品の開発に努め、次のような業績をあげている。

1. 快削鋼等の開発・実用化

昭和 30 年当時、鉛快削鋼の開発に当たり、強度部品への適用上の諸問題を解決したのを嚆矢として、Ca 快削鋼から超々快削鋼に至るまで、その普及実用化にあたって中心的役割を果たした。

2. H鋼 JIS 化の基礎づくり

焼入性による機械部品の強度管理方式の需要家に対する啓蒙普及に努め、JIS H鋼導入の基礎をつくつた。

3. 多種少量受注対応の量産管理技術の確立

需要家に於ける加工方式・用途によつて各品質特性値を組合せ、管理レベルを設定する「総合品質等級制度」を開発・確立し、多種多様な注文生産品を量産できる生産技術管理を可能にした。

4. 高品質信頼性の量産技術確立

同社の主力工場である知多工場の技術課長として、品質管理、鋼片手入れ及び精整検査の自動化並びにその精度向上を実現し、更に知多工場長として特殊鋼業界最初のブルーム CC 技術の確立に努め、適用鋼種の拡大をはかり、量産特殊鋼の高品質信頼性確立とコスト低減を果たした。

5. 3社合併の合併効果実現

日本特殊鋼(株)、特殊製鋼(株)との合併の際、生産管理部長として3社の技術、設備の集約を担当し、合併効果をあげることに貢献した。